沖釣り釣行記

中部地方の沖釣り情報　　遠州灘・伊勢湾・若狭越前

10月19日（水・旧暦９月19日・中潮２日目・干潮13：47）、釣友の平尾夫妻と共に、鳥羽市・山洋丸の午後便に乗り込み、最盛期の“秋のウタセマダイ釣り”に挑戦しました。　マダイ自体の型は今一でしたが、ワラサ（ハマチ）・ヒラメ・大アジそれに大二ベが、我々釣り人を大歓迎してくれました。

伊勢湾

秋の ウタセマダイ釣り 絶好調 !!

定刻12時に、７人の釣客を乗せた「第二山洋丸（森口 正 船長）」は桟橋を離れ、その30分後には,鳥羽沖の本日最初のポイントに到着した。

ワラサ・ハマチ

「秋マダイは、底を釣れ 」

仕掛け投入合図の前に「今日は、捨て糸はゼロにして、ゆっくり巻き上げて誘ってください」とアナウンスがあった。マダイ釣りには昔から、“春はタナを、秋は底を釣れ”という格言がある。　“ 秋マダイは、上層部の高水温を避け、底付近を遊泳する”ことから、捨て糸ゼロを指示する船長が多い。

小型マダイが入れ食い

大二ベ

イカリを下ろし船が安定した所で、船長から投入合図が出た。32mで着底。糸ふけを取った途端、コンコンという小型マダイ特有のアタリがあった。

左舷の４人全員が軽やかにリールを巻き始め、全員が24～25ｃｍ程のマダイをゲット。 しばらくの間、入れ食い状態が続いたが、 ふと、左隣を見ると、友美さんの竿が大きく弧を描いている。　巻けども巻けども中々魚が上がってこない。　竿先の動きから想像すると、掛かっているのは、ワラサのようである。 顔を見せたのは、70㎝のワラサと46㎝のハマチの２匹。

大グチ・ヒラメも上がる

大アジ・マダ

友美さんが肩で息をしながらハリを外していると、義弘さんが小さな黒い斑点のある60㎝ほどの魚を釣り上げた。　船長に聞くと「時々釣れるシログチの仲間の（大）二ベ」とのこと。 この後すぐ、義弘さんは、50㎝のヒラメも釣り上げた。　アタリは間断なく続き、友美さんが40㎝オーバーの大アジを釣ったり、私が３本バリ全部にハマチを掛けて釣り上げるなどのサプライズもあった。　日がとっぷりと暮れ、船上の灯りがともった18時に、納竿時間を迎えた。　３人合計の釣果は、50リッタークーラーにも入り切らず、“釣りすぎたかな？”と思ったほどであった。

ハマチ一荷半

今後の予想 ？

『ウタセマダイ釣り』は、年末まで続きますが、10月後半から11月にかけては、水温の低下に伴って、数は少なくなりますが、型が一回りも、二回りも大きくなります。　太仕掛け（枝糸の太さ５～６号・ハリ伊勢尼12号）を持参し、マダイ自己再長寸を狙ってください。

［ 東海釣りインストラクター協議会（JOFI東海）　松岡 隆春 ］